



平成23事業年度の特色ある取組(レジューメ)

BUNDAI

国立大学法人 大分大学

平成24年8月9日

大分大学の基本的な目標

(第2期中期目標前文より)

本学は大分大学憲章が示す目標を達成すべく、有為な人材の育成に努めるとともに、教育・研究・医療・社会連携への取り組みを通して特色ある大学づくりを目指し、もって総合大学としての機能の高度化や地域における「知の拠点」としての役割を果たす。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成を目指す。時代や社会の要請及び学問の発展に対応した人材育成を行うために、教育研究組織の再構築を目指す。

2. 特色ある大学づくり

大学の個性化と高度化を目指し、大学院レベルの教育で目指す「高度の専門職業人養成」、学部レベルの教育による「幅広い職業人養成」、及び全学的な教育、研究、医療活動が役割を担う「社会への貢献」において、本学の特色を発揮する。本学が「ナショナルセンター」に相応しい実績を有する分野については、「世界的な教育研究拠点」を目指す。

3. 地域社会との共生・発展

大分県に立地する唯一の国立大学として、この地域における「知の拠点」として機能するとともに、地域の活性化に貢献する「リージョナルセンター」としての役割を果たす。

4. 発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤の構築

運営体制の改革と安定した経営基盤の構築に努め、弾力的で効率的な大学経営の実現を目指し、質の高い管理運営組織を整備する。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

1 高等学校教育と大学教育の接続に関する主な取組 (p. 4~5, 7)

●『学問探検ゼミを核とした高大接続教育 (GP)』(平成 20~22 年度)

→日本学術振興会により「特に優れており波及効果が見込まれる取組」への選定

また, GP 終了後も学内予算にて同様の事業を展開

- ・「キャンパス大使」の派遣 (21 校 41 名)
- ・「学問探検ゼミ」, 「キャンパスレポーター」の受け入れ
- ・「チャレンジ講座 (文系・理系)」の開講 (計 15 回)
- ・「高校生なるほどアイデアコンテスト」, 「高大接続学習」, 「大分県高大連携シンポジウム」の実施

●本学医学部進学を希望する大分県内の高校生 (1, 2 年生) を対象にした「地域医療を理解するセミナー」を開催した



日本学術振興会による訪問調査



理系チャレンジ講座



キャンパスレポーター

2. 特色ある大学づくり

2-1 全学研究推進機構の主導による重点領域研究プロジェクト (p. 6)

●大型プロジェクト支援（学長裁量経費による配分）

ー平成23年度実績ー

- ・ **11件**のプロジェクトを採択（重点領域研究推進5件，研究推進拠点形成支援2件，若手研究者萌芽研究支援4件）

上記に関連した研究などにより獲得につながった外部研究資金実績



- ・ 触媒の酸化を利用したアンモニア分解による水素製造反応のコールドスタートプロセスの構築（公益信託 ENEOS 水素資金 1,000 万円）
- ・ 平成24年度科学研究費補助金（平成23年度申請）
⇒採択額 **3億1830万円**（前年度比 **1,612万円増**），採択件数 **238件**（前年度比 **19件増**）

2-2 男女共同参画社会の実現に向けた取組と女性研究者支援 (p. 6, 9~10)

- 女性研究者の研究活動支援のため、「研究奨励賞」の授与（6名に対し計180万円）及び「学会派遣支援」（計15名）の実施
- 育児・介護に携わる本学研究者を対象に「研究サポーター事業」を開始
- 部局長裁量経費に女性教員増加率の予算枠及び女性教員採用に対する評価枠の創設
- 女性研究者サポート室及び職員の休養室を備えた『男女共同参画推進本部棟』の竣工
- 大分県民に、本学の男女共同参画推進の取組及び女性研究者の活躍等を周知するため、イメージキャラクター「FAB（ふあぶ）子ちゃん」を創出
- 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主に認定され、認定マーク（くるみん）を取得し、「子育てサポート企業」となった



イメージキャラクター「FAB（ふあぶ）子ちゃん」を活用した広報用アニメーションの1コマ

※FAB：Female Academics at Bundai の略

3. 地域社会との共生・発展

3-1 生涯学習接続ネットワークの形成 (p. 5~6)

●「大分県『協育』アドバイザーネット」がNPO 法人として活動を開始
⇒本学高等教育開発センターが開催している「『協育』アドバイザー養成講座」の
修了生で組織している

●「大分県『協育』ネットワーク協議会」の設立
⇒本学高等教育開発センターと「大分県『協育』アドバイザーネット」が連携し、
大分県内約 30 の企業・団体等で組織している

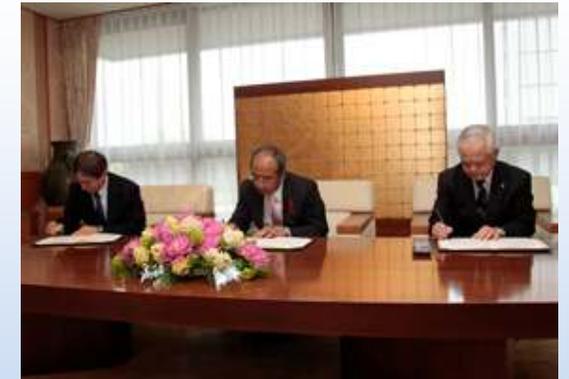
●以下について推進が期待できる

- ・大学開放事業の企画・実施
- ・環境活動や青少年対象のモデル的な事業のスタンダード化
- ・公開講座・公開授業の普及・拡大の基盤づくり

3-2 産学官連携構想に関する取組 (p. 7)

●大分県及び宮崎県にまたがる東九州地域に立地する医療機器製造企業との産学官連携による『東九州メディカルバレー構想』を大分県と一体となって推進

●医工連携による医療機器の研究開発及びこれに係る人材育成事業を推進するため、本学に大分県及び川澄化学工業株式会社からの寄附金による寄附講座『臨床医工学講座』を設置



臨床医工学講座の設置に係る協定書の締結式

3-3 医療機能強化・地域医療の貢献(p. 7~8)

- 大分県の地域医療再生計画へ積極的に参画
 - ・救命救急センター棟新営工事着工（高度救命救急センターを目指す）
 - ・ドクターヘリ基地病院としての整備
 - ・その他災害関係事業，地域医療支援関係事業，心筋梗塞関係事業等への参画
- PET棟竣工・PET導入、PETを利用した新たな研究分野の推進
 - ・九州の国立大学に先駆けたサイクロトロン（PET用薬剤製造システム）導入
- 心臓移植を待つ患者を対象とした植込型補助人工心臓の実施施設に認定
- 大分県内の高校生を対象に「地域医療を理解するセミナー」を開催
- 医学部医学科6年生を対象に「地域医療実習」を導入
- 新人看護師ローテーション研修の実施
⇒中途退職者の減少，新人育成の職場風土の醸成



ドクターヘリ「機体見学」（H24.5月）

3-4 大分県内自治体等との連携事業推進(p. 9)

大分県に立地する唯一の国立大学として，大分県内自治体等との連携事業を推進



- 大分県内全ての自治体と締結した協力協定に基づく連携を一層進めるため，第1回目となる「包括協力協定締結自治体との意見交換会」を開催
- 従来から開催していた「大分市長と本学学生の懇談会」に加え「大分市議会議員と本学学生の懇談会」及び「大分市長と本学留学生の懇談会」を大分市と共同で企画・開催



大分市長と本学留学生の懇談会

4. 発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤の構築

4-1 戦略的広報活動の展開 (p. 10)

●H23. 6月に設置した広報室を中心に、**大学ブランドを醸成することを目的とした戦略的広報活動の展開**

●平成23年10月の学長交代後も学長定例記者会見（1か月1回程度）を継続実施した

●中高生や在学生をメインターゲットとした地元FMラジオ局のレギュラー番組放送、新聞での教育・研究に関するシリーズ広告の掲載、facebookやtwitterの公式アカウントを開設

●学章を基にしたロゴマークやカジュアルロゴを製作し、統一的なブランド展開を推進した



学長定例記者会見の様子

4-2 施設有効利用調査の実施 (p. 10~11)

●各室のデータベース（2,440室：87,079㎡）の作成、**『見える化』の実現**

- ・学長直轄管理スペースの運用が可能になった（4室、60㎡）
- ・退職者等が使用していた部屋の利用状況や残された設備等の把握の容易化
- ・教員使用面積がアンバランスである現状の把握



「各室のデータベース」ログイン画面

●今後の展開として、以下の検討が可能となった

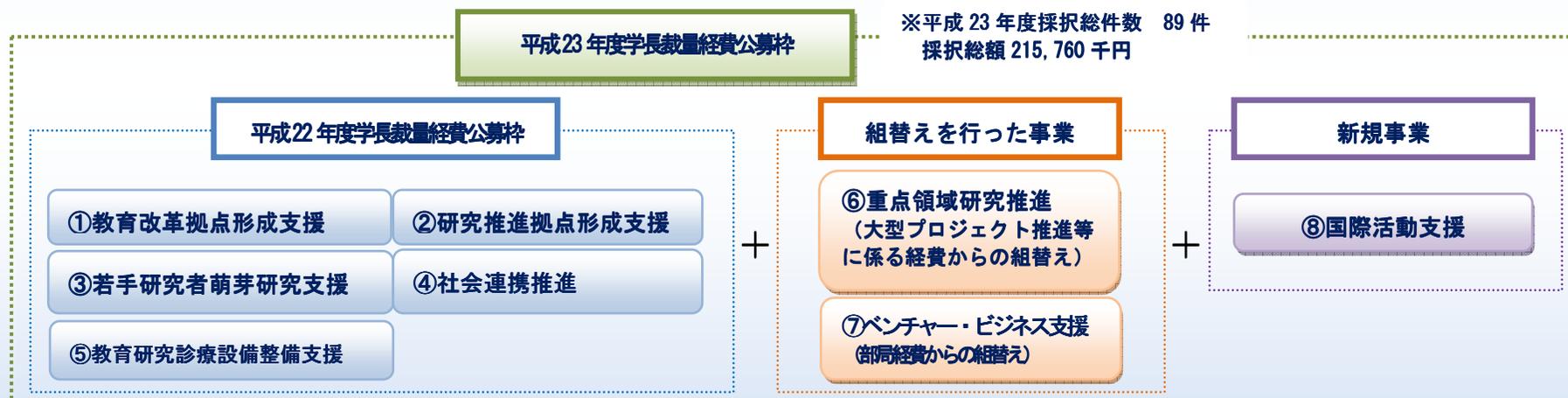
- ・教員使用面積のアンバランス是正・若手研究者の研究スペースの確保やオーバースペースへの課金化の導入など
- ・研究設備・備品の有効利用の観点から、「各室のデータベース」に本学の主要研究設備等の設置状況を登録

4-3 戦略的経費の重点的確保 (P. 16)

●大型プロジェクトなどを支援するため、一定の予算枠を確保

- ・ G P等事業期間終了後の継続支援
- ・ 男女共同参画推進体制の充実
- ・ 図書館（旦野原キャンパス）の改修
- ・ 「環境負荷の少ないキャンパスの構築」に係る経費
- ・ 教職員の資質向上に係る研修経費の充実 等

●意欲的な取組を支援するための公募対象事業関係経費の一元化の実施



※公募対象事業のほかに、学長が直接実施を指示する事業のための予算を確保

【中期目標達成積立金】

- 平成 23 年度当初予算において、第 2 期中期目標・中期計画を達成するための経費として一定の財源を確保

5. 指摘事項への対応状況

●『光熱水量について、大型研究の推進等特別な事由を除き、対前年度比1%の削減に取り組むとともに、ゴミの排出量等について、建物改修等特別な事由を除き前年度を下回る削減に取り組む。』との平成22年度計画に対する業務実績について次のとおり指摘を受けた。

○大学の主張する増加要因を考慮しても、電気、ガス、上下水道、重油のすべてにおいて対前年度比1%削減となっていないことから、年度計画を十分には実施していないものと認められる。

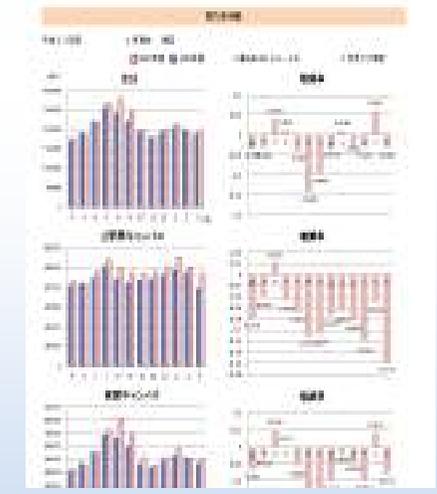
◎指摘を受けて平成23年度に実施した事項：(p.11)

- ◆ 削減目標値の設定
 - 各部局において電気及びガス使用量の削減計画を策定。特に冬季の削減対策として部局毎の電力及びガス使用量の毎月の削減目標値を設定し、達成した
- ◆ スーパークールビズ等の取組
 - 夏季において、執務室等での服装について、クールビズ以上の軽装を推奨
 - 電力及びガスの使用量について、対前年度の速報値をグラフ化したものを学内ホームページで公表
 - 各部局の事務室、研究室等に温度計を設置することによる、室温管理の徹底
 - 電力監視のためデマンド計を更新し、対前年度比95%を超えると予想される場合は、事前に学内連絡網を利用してエアコン等の電源を切るなどの対策を講じた
 - 暖房期間中には「室温見廻り隊」を組織し、週1回(計12回)学内を任意で巡回し、学生や教職員に対し省エネの啓発及び指導を行った
 - 暖房期間中にはウォームビズの推奨やひざ掛け・石油ストーブを活用し、電力の使用を極力抑えた

⇒特別な事由を除いた結果、光熱水量は前年度比2.55~12.46%削減できた



本学がスーパークールビズで推奨した服装



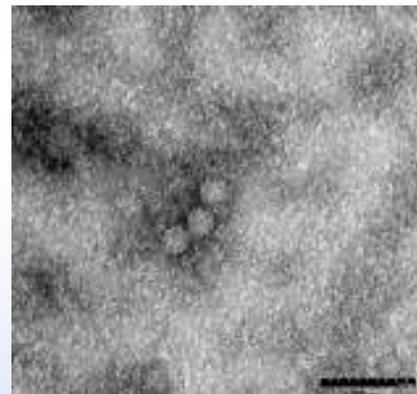
学内ホームページで公表した電力及びガスの使用量の速報値(一部)

6. 業務実績報告書には掲載していない教育・研究実績

- 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験で高合格率を達成
(社会福祉士：新卒者合格率は3年連続九州1位，精神保健福祉士：合格率100%)
- 完全ヒト型「スーパー抗体酵素」の発見(画期的な医薬品の開発のために必要な発見として期待される)
- 原因不明脳炎患者から新しいウイルスを発見
- JABEEのソウル協定対応正式プログラムに認定(日本初)
- 「フレンドシップ事業」が農林水産省の「教育ファーム事例集」に選定(大学生の取り組みとしては唯一)



「スーパー抗体酵素」の作製について
記者会見を行う本学教員



新たに発見したウイルスの画像



「教育ファーム事例集」

(農林水産省作成)